

京都造形芸術大学通信教育部大学院修了式・芸術部卒業式式辞

2015年3月14日

京都造形芸術大学学長 尾池和夫

京都造形芸術大学大学院芸術研究科{通信教育}を修了された73名の皆さん、芸術学部通信教育部を卒業された462名の皆さん、おめでとうございます。今日のこの日を迎えるまでには、ご家族の方々の暖かいご支援があったことと思います。また、熱意のこもった添削指導とスクーリングで指導にあたった教員の努力があり、それらにしっかりと応えて修了あるいは卒業の日を、皆さんは迎えられました。参列のご来賓、学校法人瓜生山学園の役員、京都造形芸術大学の副学長、研究科長、学部長、通信教育部長、センター長、教職員とともに、この式典を迎えられたことを、心からお祝いを申し上げます。

「18歳－95歳、日本中に学生がいる芸大」、「あらゆるひとが地域を超えて、職業を超えて、年齢を超えて、ここに集う。芸術を学びたい、という心ひとつで」と、京都造形芸術大学芸術学部通信教育部のウェブサイトにあります。皆さんはそのようなコースを選び、みごとに卒業あるいは修了のゴールに到着されました。

京都造形芸術大学の通信教育部サイバーキャンパスのウェブサイトには、2004年度以来の掲載許諾のある卒業制作作品や卒業研究論文の要約があります。皆さんも、ぜひそこに作品を残していただきたく存じます。

印象に残ったいくつかの作品を紹介したいと思います。

大学院の大橋京子さんの作品は「宮城県に伝わる茶の諸相」でした。創造的文化として「北限のお茶」を追求するものでした。また、同じく大学院の三又耕三さんの日本画「桜島」は、地表から10キロほどの地下に大きなマグマだまりを持ち、今にも大規模な噴火を起こすであろう活火山の迫力を見せました。日本庭園の内藤仁さんの研究「塔心礎の排水機能に関する研究」は今後にさまざまな研究課題を生み出すであろう予感を与える興味深い内容のものでした。

和の伝統文化コースの宮澤尚歳さんは「茶室空間の変遷－立礼室の成立を展開－」という論文を完成しました。私は正座がたいへん苦手なので、この題に興味を持ったのですが、論文の最初に、膝が痛いので立礼が登場したとあり納得できました。膨大な資料から立礼の登場を分析しており、この形式の茶室が広まる期待を持って拝見しました。

学部の作品では、神先智子さんの日本画「川－水－その大いなる意志－」の前にしばらく立って、澄み切った静かな水のある大地を見つめることができ、とても気持ちが落ち着く印象を受け、学長奨励賞という賞を新設するきっかけとなりました。

陶芸の作品「蠶」の安藝範子さんの作品では、技を極める過程はどんなものであったか

という思いにかられました。

写真コースの部屋の床に置かれた2枚の大きな作品は、夏の草と冬の草の写真で、野村清治さんは、その作品「野—そこにある輝き—」を、全部で300枚くらい撮影してつないだと説明してくれました。高橋親夫さんの「復興大地」は、仙台市の海岸の地域で、津波で被害をうけ、再び農地に蘇る過程を2年かけて撮影したもので、震災の年に入学して、震災の前から撮影してきた大地を、これからも撮影し続けていきたいと語りました。ちょうど、石巻から帰ってきたばかりの私は、感慨深いものを感じました。

デザイン科空間演出デザインコースの岡本正人さんは「癒や紙—備災のおくりもの—」という作品で、こころにゆとりを与えられる防災グッズを、手触りのよい紙を選んで制作しました。箱に家族の写真を入れて災害時に役立てようという心配りもありました。

建築デザインコースの吉田裕美さんは「道住創寿—「寿地区」ドヤ街一掃プロジェクト」という作品で、10ヘクタールの中に現在ある125戸の住居をリセットして6500人の生活保護者がいる街を提案しました。ちょうどこの展示の最中に河上真理さんと清水重敦さんの著書『辰野金吾』という本が届けられ、そこに「美術は建築に応用されざるべからず」という辰野金吾のすばらしい言葉が記録されているのを見つけて、この言葉をくり返しながら、建築デザインコースの作品をもう一度見に行きました。

情報デザインコースの和田京子さんの作品は、「じぞう川におしえてもろたこと」という完成度の高い絵本でした。醒ヶ井の地蔵川を題材に、川離れする子供たちに川と繋がりを持ってほしいという思いを、近江弁の中でも独特の湖北弁を使って表現しました。

美術科染織コースの、有益洋子さんの「Climb-clip」という作品、石村典子さんの「手を染める」という作品は、人間館1階で入ってきた人の眼を引く場所にあり、毎日そこを通る度に目に飛び込んでくるものでした。その強い印象に惹かれて、通るのが楽しみになった9日間でした。

昨年の印象と、今年の世界展の印象は、全体として異なったものでした。要するにそれだけ個性豊かな作品であるということだと思います。皆さんの後輩の活躍がまた期待されるということになります。

添削指導で大量の作品などをやりとりする発送業務の方々も含め、多くの関係者の毎日の努力と、皆さんの努力が卒業・終了展にまとめられていました。関係の方々にあらためて感謝申し上げます。

京都造形芸術大学通信教育部で修士の学位を得られた方は現在までに469名、学士の学位を得られた方は、現在までに5246名になりました。その方たちが各地で活躍しています。卒業後の人生もまたさまざまでしょうが、くれぐれも健康に留意し、何よりも元気で、ご活躍くださるよう祈って式辞といたします。

修士および学士の学位を得られた皆さん、まことにおめでとうございます。  
ありがとうございました。